

# 国土形成計画シンポジウム

## ～北陸のこれからを考える～



「国土形成計画シンポジウム～北陸のこれからを考える～」は2月26日、福井市のアオッサ8階福井県民ホールで開かれ、多くの方が北陸圏の重要性を再認識するとともに、国土形成計画の理解を深めました。

北陸圏広域地方計画協議会の新木富士夫会長（北陸経済連合会会長）は主催者あいさつで、「北陸は、環日本海諸国と東京、名古屋、大阪、三大都市圏を結ぶ扇の要。

元気で活力ある自立的な地域づくりに向け、特色ある北陸圏広域地方計画を作成する必要がある。」と述べられました。

東京大学大学院の大西隆教授による「東アジアの時代における地方の再生と自立～広域地方計画の役割～」と題した基調講演では、アジアの時代の到来で、北陸がアジアの表玄関になると強調。パネルディスカッションでは、地域特性を生かした今後の北陸のビジョンを語り合いました。

### 基調講演「東アジアの時代における地方の再生と自立～広域地方計画の役割～」

#### 大西 隆 氏（東京大学大学院 工学系研究科 都市工学専攻 教授）

2050年、世界の都市人口のシェアの半分以上をアジアが占めると推測されています。これからはアジアが中心となります。国土形成計画は、これらを踏まえて作成する必要があります。

国土形成計画は、全国計画と全国8ブロックの広域地方計画の二層構造となっています。法律まで変えて新しい計画を作ろうとしていることには理由があります。

まず、「地方分権」。地方の計画には地方の自治体の意見を積極採用すべきとの観点です。2点目は「開発からの脱却」。国土形成計画法は、開発を整備という言葉に置き換えました。日本全土がある程度開発されたとの前提。その上で将来どう整備するかとの考えです。

そして最後に「アジアの時代」。これからはアジアとの付き合いが重要だということを述べています。アジアとの連携を深める中で、日本海側にある北陸は地政学的にも表玄関になるでしょう。

新たな国土形成計画では、人口減少と地域間格差に対する対応が求められます。地域間格差の是正には地域振興が不可欠で、地域振興には基幹産業と地域産業の両立が重要です。基幹産業は他の地域から外貨が流入される、いわば輸出産業。地域産業は地域内で消費される産業です。外貨を獲得し地域で循環させ、隅々まで富を行き渡らせる構造が必要です。

地域振興は、▽経済の発展▽公平な富の分配▽環境保全▽人口の持続性▽都市構造—の5項目から成る持続可能性がキーワード。各項目をバランスよく発達させることが社会の持続性に不可欠です。



それぞれの指標から平均すると、石川県が全国1位、福井県が7位、富山県が18位と北陸は全国的に上位にあります。しかし、人口の減少と都市の拡散という問題もあります。

現在、3県で310万人の人口は、2030年には県レベルで約2割減るでしょう。都市はこれ以上拡散させないことが重要です。

車社会の福井では車の改善も重要です。今後のハイブリッド・電気自動車のさらなる普及に応じ、自治体も技術開発や促進策を講じることが大切です。免許保有者の高齢化も考慮し、コンパクトシティに加え政策に車の技術革新を取り入れるべきではないでしょうか。

北陸には次代を考える多くの種が存在しています。広域地方計画の大きな枠組みの中で生かすことで、北陸がさらに持続ある社会になると確信しています。

## パネルディスカッション 北陸が目指す姿

### ◆パネリスト

猪爪 範子氏（福井ふるさと大使・地域総合研究所役員）・・・「奥山」に目を向けて

中村 雅俊氏（コマツ生産本部粟津工場管理部長）・・・北陸の港活用不可欠

福島 順二氏（越中八尾観光協会会長・おわら保存会会長）・・・観光で広域連携を

吉野 清文氏（国土交通省北陸地方整備局長）・・・地域のビジョンを打ち出して

### ◆アドバイザー

大西 隆氏

（東京大学大学院 工学系研究科 都市工学専攻 教授）・・・北陸の豊かさを生かそう

### ◆コーディネーター

四戸 友也氏（福井新聞社 編集局長（開催時 論説主幹））

四戸 福井県を含めた北陸圏が目指す姿、方向の議論を進めます。まずは猪爪さん、地域居住問題について。

猪爪 私は今まで二度役所で専門プロパーとして働きましたが、奥山が非常に問題と考えます。背景には鳥獣被害による農山村居住の深刻化があります。鳥獣被害を減らすべく奥山保全の本格化が必要です。追い払うといった対処療法は限界。共生、広域、撤退、回復をキーワードに保全計画を作るべきです。

四戸 中村さん、物流から見た北陸の現状はどうでしょう。

中村 コマツは、北陸地区に6工場ありますが、今後の建設機械の海外需要予測からすると、粟津工場の輸出能力の向上が必要です。粟津工場の製品は神戸・名古屋港といった太平洋側の港へ運ばれていますが、輸出コストやCO<sub>2</sub>削減の面で、北陸の港の活用が重要となります。とりわけ金沢港のフル活用が競争力向上のために戦略上不可欠です。

四戸 続いて観光面です。おわら風の盆のPRの経緯や取組について福島さんお願いします。

福島 越中おわらは300年の歴史がありますが、テレビや小説の影響で有名になり、3千人の



区域に3日間で30万人も訪れたことから、一年を通じておわらを感じられる観光のまちづくりに取組み、定期的な舞台公演や団体予約でいつでもおわらを鑑賞できる仕組みをつくりました。東海北陸自動車道の全面開通など交通アクセスの良化で北陸の距離感が近い今、3県にある豊富な観光資源を連携させる必要があると思います。

四戸 福井豪雨、能登・中越大地震など災害が多発しています。防災面はいかがでしょう。

吉野 インフラ整備は当然ですが、情報共有、住民との連携といったソフトの連携も重要です。ハードとソフトを一体的に取り組むよう努力しています。

大西 産業などは必ずしも長続きしません。1つのものがずっと地域を支えるのではなく、あるものが支えている間に次のものを準備する必要があります。次代を考える努力が活性化には大切です。

四戸 敦賀港大型岸壁も完成し、さらなる北陸の活性化が期待できます。北陸エリアにどう産業を集積し、人材をどう育成すればいいのでしょうか。

中村 物流基盤の充実と優れた技能者の育成、技術力の醸成の3点に尽きます。人材育成には産学官の連携が必要でコマツも進めています。産業集積には釜山港を中心とした航路開拓など、成長著しい新興国とのグローバル物流改革が必要です。

四戸 奥山を守るにも人材が必要です。福井県でも定住構想を進めています。

猪爪 住み手が減っていることに着眼しないといけません。東北や中国地方の山地には外国人のお嫁さんが定着し地域の重要な役割を担っています。人口が減る中、農山村の最奥部分も国際化しないと展望は開けません。フィリピンなどから介護や介助の人材を確保しようとしています。彼女たちの負担を軽くすることが大切です。

四戸 滞在型・広域観光はいかがでしょう。

福島 北陸3県がそれぞれのよいものを認め合う姿勢が大切であり、共生と補完を意識した連携が今後の展開に必要です。新幹線の開通など環境が変わる中、3県の総合的な取組により、北陸の魅力を高めることで観光振興、定住人口の増加につながると思います。

四戸 広域圏の連携・交流にインフラがもたらす効果は大きいと思いますが。

吉野 東海北陸道の全線開通で当初3千台の予想だった1日の交通量が3倍になりました。白川郷、五箇山はもちろん、兼六園の入場者も3割増えています。能越道も氷見市まで開通しており、沿線、輪島市の入り込みが増えています。北陸・東海の自治体間で観光交流都市協定、災害時応援協定が結ばれていますが、人口減少時代では交流がキーワードとなるでしょう。港、空港と高速道路をつなぐことで海外との交流も深まります。今後はこうした交流の拡大を、地域の方々がいかに生かすかがポイントとなります。

四戸 交流を盛んにする工夫はありますか。

大西 大学では、日本の学生が減り一層の国際化が求められています。広域地方計画には東アジアとの連携が記されていますが、留学生の受入を一元化するなど大学の連携を強めることも必要です。中国やインドなどアジアの大交流時代に北陸の大学が1つの研究・教育拠点にならないといけません。

四戸 地域間の競争に打ち勝つための観光戦略とは。

福島 国土形成計画（全国計画）では、国と地方との協働がうたわれています。観光に対しても国の大きなサポートが必要です。繰り返しになりますが、3県の特性を生かしながら連携

することが大切です。

四戸 今、東アジア時代の話が出ました。コマツが国際競争力を一層強めるため、北陸で取り組まなければならないことはありますか。

中村 北陸が誇る人材を有効に活用し、先端技術を磨き、道路整備と航空貨物の利便性を向上させる必要があります。豊かな観光資源を背景として、海外のお客様が来易い環境を整えれば、北陸との交流が活発になり北陸のよさのみならず、技術に対する理解も深まると思います。

四戸 都市の農山漁村の交流がうまくいけば、中山間地域への定住も促進できます。

猪爪 広域連携を語る時、飛行機や新幹線とこの地域を結ぶ「二次交通」も忘れてはいけません。観光客、居住者の高齢化が進む中、買い物や病院への足の重要性は高まります。モビリティの向上が必要です。大いに夢を語ることも大切です。小浜市で「オバマばし」が売られていましたが、フットワークの軽さ、ポジティブシンキングに好感を持ちました。地域が夢を持って先に進むことを支えていくことも計画の役割として期待しています。

四戸 これからの地域づくり、北陸新幹線など社会資本整備について吉野局長お願いします。

吉野 社会資本整備は、整備することの意味が重要となっています。新幹線は非常に重要な課題です。特に金沢以西については、着工調整費が計上され一歩進んだと理解しています。まちづくりは、インフラ整備の視点だけでなく地域をどうしたいとの視点でしっかり見極めるべきでしょう。

四戸 この東アジア時代の到来の中、北陸がどのようなことに重点をおいていくべきか。大西さんアドバイスをお願いします。

大西 近年、東京、それどころ一部への集中が見られますが、こうした国土の使い方は好ましくありません。いろいろなところに住み、それぞれの地方での特色に応じた活性化を図ることが必要です。それには、コマツも含め日本の中心的企業が地方都市を見直すことが必要で、インフラなど大企業がきちんと活躍できる条件を整えないといけません。北陸圏はその象徴を目指してほしい。各種データでは、大都市圏に次ぐ豊かさを持っており地方の最先端のことができると期待しています。

四戸 住みやすさや生活満足度の高さを生かして産業や先端技術を取り入れ、交流人口も増やしたい。北陸圏広域地方計画にはこうした面を視野に入れていただきたい。あらゆる意味でモデルになるエリアだと思います。今日はありがとうございました。